

# 農業



令和元年7月号  
会誌 No. 1653

## 目次

### 巻頭言

働き方改革と家族経営協定……………大杉 立 3

### 論 壇

学校給食用牛乳の風味変化問題……………本郷 秀毅 4

### 農事功績者座談会

女性農業士の積極的な経営参画による水稲・大麦作と種子生産…………… 6  
私たちの水稲・大麦作と種子生産による農業経営のあゆみ……………倉成 直江 6  
夫からの話題提供……………倉成 保彦 10  
現地指導者のコメント……………河野 悦子 11  
意見交換…………… 15

### 大日本農会秋田支会活動報告

人を活かす農業法人の経営戦略…………… 24  
- 労働力から人材へ -

### 研究の最前線

発酵食品データベース……………曲山 幸生 45

### 農業・農村の現場から

ブルーチーズづくりと、そこから広がる地域づくり……………伊勢 昇平 54  
- 北海道旭川市江丹別 伊勢ファームチーズ工房の挑戦 -

**世界の農業は今**

コムギの起源地を訪ねて……………西田 英隆 59  
- 南コーカサスと中央アジアにおける遺伝資源探索 -

**私の経営と志**

結婚しても持続可能な農業を目指して……………木下 美鈴 67

**農政情報**

…………… 69  
大日本農会だより…………… 70

**ミニ情報**

地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物(18) …… 69

**表紙写真説明**

**収穫を待つ福島のモモ（福島県福島市）**

福島市では、露地栽培のモモの収穫が最盛期を迎えています。福島は果樹の生産が多く、なかでもモモは生産量で全国第2位を誇ります。モモは一般的には柔らかいイメージですが、福島のモモには「あかつき」や「まどか」など硬いままでも美味しい品種が沢山あります。

福島と言えば、東日本大震災による原発事故があり、世界中が知る土地となりました。当時、不安になり農業をやめるか悩んだり、葛藤したりした農家が多くいましたが、春が来れば花が咲き、実がなり、大きくなったら収穫するという変わらない自然との巡りに合わせて農家は木を守ってきました。安全・安心が分かり、待っている方に食べていただけるタイミングまで、寡黙に木を守り続けているのです。農業は「命をつないでいく」仕事です。

収穫まで畑を何巡もして、より良い実を残すためにすべて手作業で一つ一つの実を見て選っていきます。初夏の摘果を済ませた6月頃から、袋掛けする品種もあります。これは実にヒビ割れが入るのを防ぐためで、とても骨の折れる作業ですが、心待ちにしている人を想うとそんな苦勞も吹き飛びます。  
(Berry's Garden 景井 愛実)